Lonworks マスタカード
LNS プラグインソフトウェア
（形式：BA3L1PLG）
取扱説明書

株式会社 エム・システム技研

目次

1 はじめに 3
1.1 BA3-ML1 について 3
1.2 BA3L1PLG について 3
1.3 動作環境 3
1.4 インストール、アンインストール 4
1.4.1 インストール 4
1.4.2 アンインストール 4
2 操作 5
2.1 BA3L1PLGの起動と終了 5
2.1.1 起動 5
2.1.2 終了 5
2.2 画面構成と機能 6
2.2.1 パラメータ設定の手順 7

1　はじめに

本書では Echelon 社製 LonMaker Integration Tool 上でご使用いただける「BA3－ML1 プラグインソフトウェア」の取扱方法、操作手順、注意事項などを説明しています。

LonMaker の詳細や操作などについては、LonMaker のマニュアルを参照ください。

1.1 BA3-ML1 について

BA3-ML1 は BA3 シリーズの LonWorks 用マスターカードです。このカードに接続され、LonMaker 上にて設定された LonWorks の各ノードのネットワーク変数のデータを収集し、BA3 シリーズのコントローラカード（BA3-CB1）に伝送します。また、BA3-CB1 から伝送されたデータを LonMaker の設定に従い LonWorks 上の各ノードに伝送します。

特長

- 入力用ネットワーク変数（以下 NVI と略）の数：５１２点

  1 つの fbNVI(入力用ファンクショナルブロック)に 16 点の NVI があり fbNVI が 32Block 分定義できます。

- 出力用ネットワーク変数（以下 NVO）の数：５１２点

  1 つの fbNVO(出力用ファンクショナルブロック)に 16 点の NVO があり fbNVO が 32Block 分定義できます。

- 各 NVI、NVO について一点１００ｍｓで、データを収集または伝送します。

  LonMaker 上で伝送を設定（バインド）されたネットワーク変数が NVI,NVO 計１００点分ある場合約１０秒程度で１００点分のデータを収集、伝送します。（各ノードが全て正常である場合）

1.2 BA3L1PLG について

BA3L1PLG は各 NVI,NVO のネットワーク変数の型を変更する機能があります。

各 fbNVI、fbNVO 単位に画面上に表示を行いそれ単位で同時に１６点分のネットワーク変数の型を変更できます。

1.3 動作環境

BA3L1PLG ソフトウェアを使用いただくにあたり、下記のソフトウェア、ハードウェアが必要です。

・インテグレートツール：LonMaker Turbo Edition Ver.3.2 以降＋LonMaker Turbo Service Pack 4.0 以降

・リソースファイル：LonMark Resource File Ver.13 以降

・LonMaker で推奨された動作環境で動作する PC/AT 互換 PC

（注：仕様は LonMaker で指定されている動作環境に準じますが、全ての環境での動作を保証するものではありません。）

・上記パーソナルコンピュータに接続できる LonWorks インターフェース（FTT-10A 互換）

1.4 インストール、アンインストール

このソフトウェアは、弊社ホームページ（http://www.m-system.co.jp）よりダウンロード可能です。圧縮ファイルとなっていますので、インストールの前に解凍を行ってください。

1.4.1 インストール

プラグインソフトウェアを LonMaker 上で使用するためインストール中 LonMaker にプラグインを登録します。

プラグインソフトウェアが登録されると、LonMaker は Network を新規作成する毎に BA3L1PLG を Network の BA3-ML1 のデバイステンプレートに登録する手順を実行します。

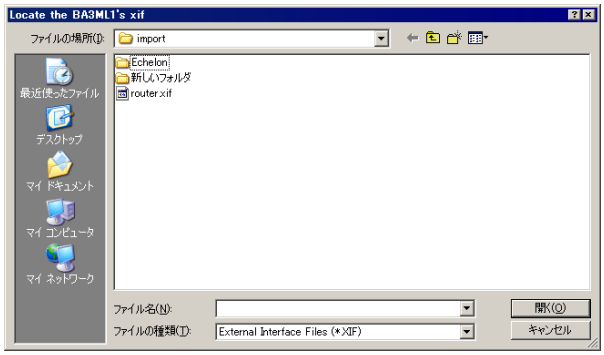
（LonMaker にて BA3L1PLG を Disable にした場合は実行されません。）

- LonMaker に BA3L1PLG ソフトウェアをインストールする。（BA3L1PLG を初めて使用する際行います。）
  圧縮ファイルを解凍し、解凍されたファイルの「setup.exe」ファイルを実行してください。画面操作に従って操作して、BA3L1PLG をインストールします。

注意！ LonMaker や LNS DDE Server 等の LNS ソフトウェア実行中に BA3L1PLG をインストールすると正常にインストールできない場合がありますので、それらのソフトウェアが動作していない状態でインストールを行ってください。

- LonMaker が新しい Network に BA3L1PLG を登録する際の手順
  この時下記のファイル選択の画面が表示されますので BA3-ML1 の XIF ファイルを選択してください。
- エラー等により失敗した場合、Network に登録されている BA3-ML1 の DeviceTemplate を全て削除したのち、再度登録手順を行ってください。

注意！ BA3L1PLG を新しい Network に登録する際、BA3－ML1 の Device Template も一緒に登録するため、XIF ファイルが必要となります。あらかじめご用意ください。



1.4.2 アンインストール

Windows のコントロールパネルにある「プログラムの追加と削除」を開きます。

アプリケーションの一覧から「BA3L1PLG」を選択し、＜削除＞ボタンをクリックしてください。

BA3L1PLG するファイルが削除されアンインストールが完了します。

注意！ LonMaker や LNS DDE Server 等の LNS ソフトウェア実行中に BA3L1PLG ソフトウェアをアンインストールすると正常にアンインストールできない場合がありますので、それらのソフトウェアが動作していない状態でアンインストールを行ってください。

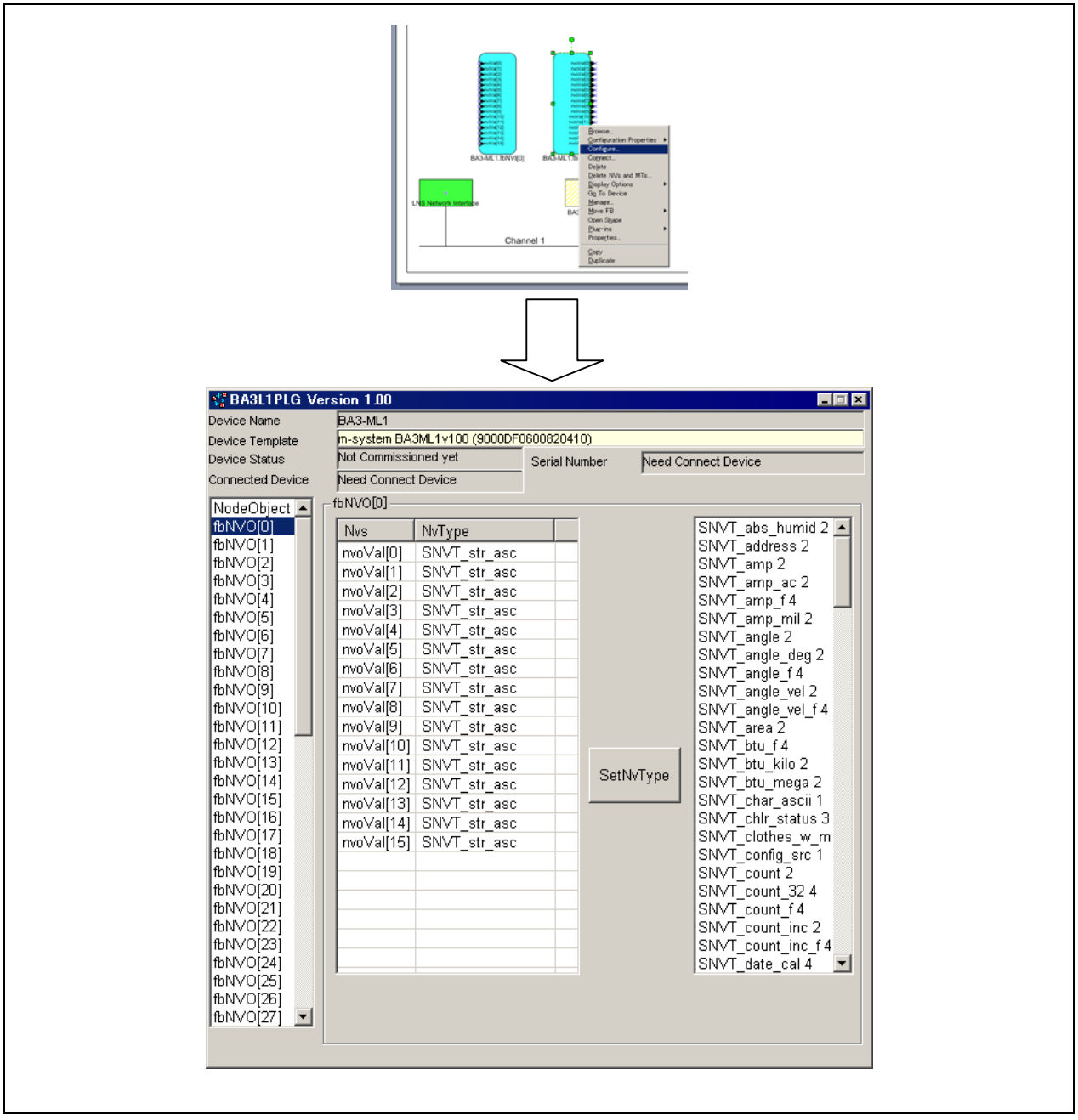
2　操作

2.1 BA3L1PLG の起動と終了

2.1.1　起動

LonMaker（VISIO）上で BA3-ML1 のデバイステンプレートにより定義された Device を選択後、右ボタンをクリックし、「Configure」を左クリックすると BA3L1PLG の画面（下記右図）が表示されます。

また、の BA3-ML1 の FunctionalBlock(fbNVI,fbNVO)を選択後、右ボタンをクリックし、「Configure」を左クリックしても同様な画面が表示されます。



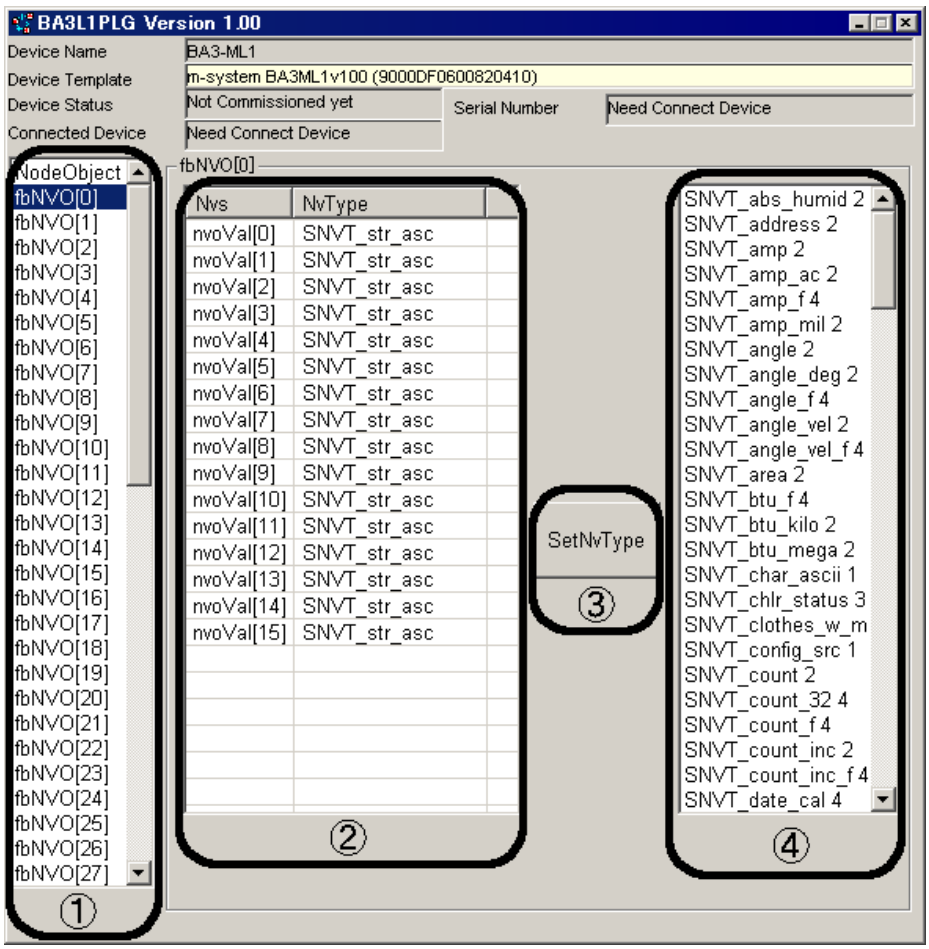
2.1.2　終了

タイトルバーの右端の＜X＞ボタンにてウィンドウを閉じてください。

2.2 画面構成と機能

BA3L1PLG の画面構成と詳細機能について説明します。

BA3L1PLG のウィンドウは上部の Device 情報表示（BA3L1PLG 起動時の選択されていた Device）と左サイドの FunctionalBlock の選択用リストと画面中央の FunctionalBlock の表示部に分かれています。



項目名	説明
Device Name	Window に表示している Device の Device 名を表示します。
Device Template	表示している Device のテンプレート名を表示します ()内は LonWorks の Program ID 番号です。
Device Status	表示している Device の状態を表示します。 Not Commissioned yet:コミッションされていません。 Cnfg Bypass:オフライン状態です。 Cnfg Online:オンライン状態です。
Connected Device	接続されている Device から Device 名を取得し表示します。
Selected FB （①の部分）	表示する Functional Block を選択します。
②の部分	各ネットワーク変数の名前(Nvs)と現在の型（NvType）
④の部分	変更したいネットワーク変数の型を選択します。名前の後ろの数字は型のバイト数を示します。（③のボタンでセット）

2.2.1　パラメータ設定の手順

Step1.　　設定を行う FunctionalBlock を左サイドのリストで選択して、画面中央に表示する。

Step2.　　変更したいネットワーク変数を②の部分にて選択する。（複数選択可能）

Step3.　　セットするネットワーク変数の型を④の部分にて選択する。

Step4.　　③のボタンにて②で選択されたネットワーク変数を④で選択された型に変更する

LonMaker の Network 構成には各 LonWorks の機器の設定情報（Configuration Property）も保存しているので、デバイスが接続されていない状態でパラメータを変更した場合 Netowork 構成上のデバイス設定情報が変更されます。（Network の Database にデータを保持します。）

そして、デバイスが接続されたときその変更内容もデバイスに書き込まれます。